SEAJ 人財開発専門委員会
～はじまりから今後の展開（学会編）～

人財開発専門委員会は2021年7月に発足した専門委員会です。委員会発足前の大学プロジェクト活動内容については、2020年の SEAJ Journal [1] に投稿しました。今回は専門委員会発足から5年間の活動、特に学会との活動にフォーカスして解説します。

組織

人財開発専門委員会は発足当時、7社8名、事務局3名の体制でした。会員参加社数、委員・事務局人数の推移を**図1**に示します。参加社、委員数とも増加を続けています。委員会の成長を想定して最初からワーキンググループ（WG）を設定し、機能別に活動できる体制を構築しました。

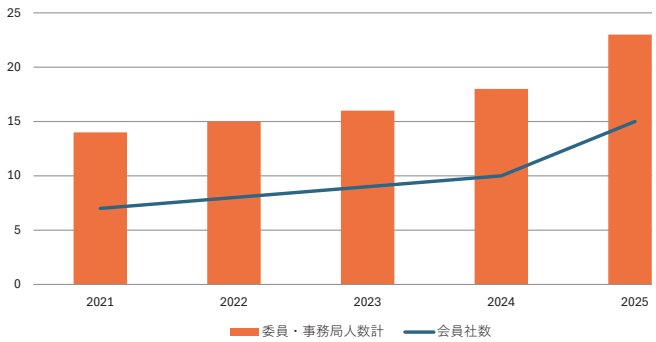

図1　人財開発専門委員会委員数・会員社数推移

活動テーマ

委員会発足前のプロジェクトのときから「学生に来てもらうのではなく、会いに行く」をコンセプトに、大学訪問イベント、学会シンポジウムを企画、開催してきました。その際に継続することを念頭に会員企業が参加申し込みする際の帳票、ポスター、プログラムを整備しました。これらは現在でも継続しています。事務処理の安定稼働により大学数増、シンポジウム数増への対応ができました。

学会活動

(1) 応用物理学会

2017年9月学生啓発プロジェクト（後に大学プロジェクトに改名）発起人として事務局メンバーと会場である福岡国際会議場へ事前見学に行きました。SEAJ は学会とのイベント連携経験はなく、シンポジウムがどのようなスタイルで開催されているのかイメージを持っていなかったためです。そこで応用物理学会界面ナノ電子化学研究会の立上げからの経験を活かし、先ずは現地を観て、その後可能性を

表1　就活生必見！シリーズ 基調講演

開催回数	開催日	場所	タイトル	基調講演者	
				1	2
1	2018/03/19	早稲田大学	AI･IoT･ビッグデータで爆発的に拡大する半導体産業を支える日本の技術 ～若手社員の現場の声とともに～	荏原製作所 辻村学	-
2	2019/03/11	東京工業大学	知ってますか？ エレクトロニクス産業が拡大し続けていることを！ ～日本が支える世界のスマート化社会と若手エンジニアが語る「やりがい」～	東芝メモリ 西山彰	東京エレクトロン 保坂重敏
3	2020/09/10	WEB	車は半導体で出来ている！ ～ニューノーマルの社会基盤を支える半導体技術と研究者のやりがい～	デンソー 磯部良彦	東京精密 高橋将友
4	2021/3/18	WEB	Withコロナ時代に加速するDXに欠かせない半導体	みずほ証券 山本義継	キヤノン 吉崎教裕
5	2021/9/11	WEB	半導体の進化無くしてAIの進化無し	キオクシア 出口淳	SUMCO 小森隆行
6	2022/3/24	青山学院大学/ WEB	カーボンニュートラルは半導体が切り拓く	野村證券 和田木哲哉	-
7	2022/9/22	東北大学/ WEB	私は応物で就職を決めました	マイクロンメモリジャパン 青砥なほみ	-
8	2023/3/24	上智大学/ WEB	日本が止まると世界が止まる！ ～わたしたちの半導体レジェンド技術 ～	慶応義塾大学 林　喜宏	-
9	2023/9/21	熊本城ホール/ WEB	業界はあなたを求めている！ ～成長する半導体産業を未来へつなぐ多様な人財～	tsmc 佐野 謙一	-
10	2024/3/23	東京都市大学/ WEB	未来への挑戦状 ～半導体が開く未来社会へのビジョン～	Rapidus 石丸 一成	-
11	2024/9/19	朱鷺メッセ(新潟)/ WEB	未来をあなた自身の手で！ ～半導体が生み出す新しい世界～	アセントロボティックス 久夛良木 健	-
12	2025/3/15	東京理科大学/ WEB	あなたならできる半導体のイノベーション ～ 創造力で新しい時代を ～	同志社大学 森 良弘	-
13	2025/9/9	名城大学 /WEB	次世代を担う頭脳 ～半導体産業の最前線～	レゾナック 近藤 誠一	-

探ることにしました。大相撲九州場所も開催される会場は盛況で、シンポジウムにも数百名の参加が確認できました。

学会事務局との間には界面ナノ電子化学研究会との交流があった同じ応用物理学会の産学協働研究会（現インダストリアルチャプター）の株式会社湧志創造 堂免恵代表取締役（元株式会社富士通研究所）、横浜国立大学 為近恵美教授（元日本電信電話株式会社）が参加、産学で連携するという同じ方向性の関係者が協力し、2018年春にSEAJとして初めてのシンポジウムを開催することができました。この体制は現在でも継続し「就活生必見！」と題した本シンポジウムはこの秋まで13回開催しています（**表1**）。「車は半導体でできている」「私は応物で就職を決めました」のようなタイトルで業界の雰囲気を伝えるイベント作りをしています。コロナの期間中もリモートで開催しました。現在はランチョンとのセットでシンポジウムのさらなる活性化を図り、学生のみなさんと双方向コミュニケーションを推進しています。この部分にはキオクシア株式会社吉水康人参事（EmotionX株式会社代表取締役CEO）の参加が大きかったと感じています。このような経緯から毎回200名の参加がある応用物理学会恒例のシンポジウムとなりました。

(2) 精密工学会

応用物理学会では業界研究のシンポジウムを開催していますが、精密工学会ではSEAJ会員企業の技術者が半導体製造プロセスを装置技術と合わせて講演するスタイルのシンポジウムとしました。2024年秋、第1回（岡山大）を開催、半導体前工程のプログラム（**図2-1**）には約200名の聴講があり盛況でした。第２回（千葉工大）を2025年春に開催（**図2-2**）、後工程中心とした内容にも同様に200名が参加、関心の高さを伺うことができました。

このようなスタートができたことには主に3つの理由があります。1）精密工学会とSEAJ人財開発専門委員会の関係者が初めて面会したのは2024年4月、そこからコンテンツの検討をしていたのでは9月のシンポジウム開催に間に合いません。SEAJは福岡半導体リスキリングセンター[2)]において2023年から半導体製造装置講座の講師を担当していたことから、このプログラムをアレンジし短期間にシンポジウム開催につなげました。2）この経験だけではなく、調整役の貢献がありました。株式会社character長谷川功宏代表取締役（元株式会社東芝）の参加です。SEAJ人財開発専門委員会として学会との連携には業界をよく知り学術にも精

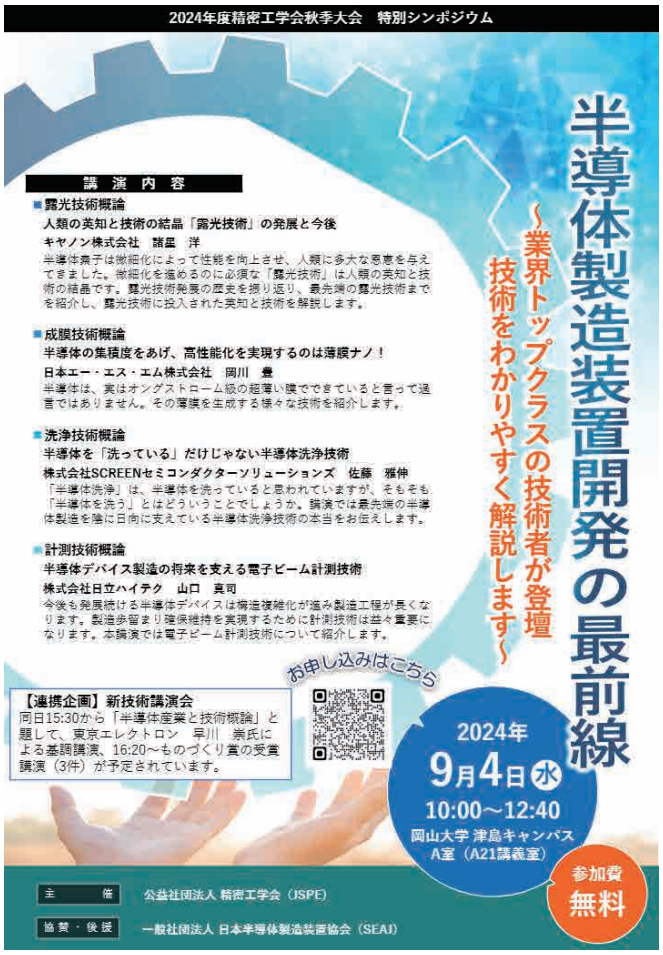

図2-1　精密工学会2024秋ポスター

図2-2　精密工学会2025春ポスター

通した調整役の存在が重要であると再認識しました。3）さらにシンポジウム講演者と参加者をインタラクティブに交流できるよう slido というインターネットツールを利用していることも盛会に一役買っています。

精密工学会のシンポジウムは9月に第3回を開催しました[3)]。これまでの2回は前述のように SEAJ から半導体製造装置の内容を講演しましたが、今回は精密工学会から半導体に関連する研究の講演としてシーズが紹介されました。今後交互に主催することを検討しており、継続的なイベントに発展するものと思っています。

今後の展開

人財開発専門委員会のメンバーの会社での業務を**図3**に示します。これまで大学や学会のイベントを企画やマーケティング関係者が中心になって進めてきました。採用に関係する内容のため人事関係者も増えてきました。そこで人事関係者の活躍の場を作るべく人事プロジェクトを立ち上げました。人事に関する各社の取り組みの紹介や相談をするミーティング、イベントを開催します。このように委員の情報交換、成長の場になり、入りたいと思ってもらえる専門委員会にしたいと活動を継続しています。

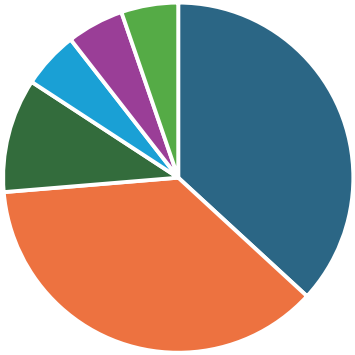

図3　人財開発専門委員の会社業務

謝辞

応用物理学会、精密工学会のシンポジウム開催にあたり、お世話になった先生方、学会事務局、SEAJ 事務局、運営委員、人財開発専門委員の皆様にこの紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

（人財開発専門委員会　委員長　荒木（あらき） 浩之（ひろゆき））

参考文献

1）荒木浩之（2020）「SEAJ 大学プロジェクト活動～はじまりから今後の展開～」SEAJ Journal 2020. 12 No.171 p.28-30.
2）https://reskilling.ist.or.jp/
3）https://2025-09autumn.jspe.or.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/25-09-semiconductor-sympo.pdf